

119だより

NANTAN
FIRE DEPARTMENT

2022

No.

27



伊佐小学校 社会見学

災害状況



令和4年
1月20日現在

- 火災… 1件
- 救急… 178件
- 救助… 1件

主な内容

特集 火災発生状況!!

「建物火災が増加しています」

…… 2・3

- ◆ トライやるウィークの実施
養父市消防団合同消防訓練 …… 4
- ◆ 甲種防火管理新規講習
令和4年消防出初式 …… 5
- ◆ 消防写真館・消防白書・火災調査レポート …… 6・7
- ◆ お知らせ …… 8

特集 火災発生状況 !!

【建物火災が増加しています】



火災件数21件
うち建物火災12件

火災発生状況

南但消防本部管内（養父市・朝来市）における令和3年の火災件数は21件でした。

火災種別でみると「建物火災」が12件、「車両火災」が3件、「林野火災」が0件、「その他の火災」が6件でした。

例年、火災発生件数のうち「その他の火災」の発生割合が約半数を占めるなか、令和3年は減少しています。

しかし、建物火災の発生割合をみると、令和元年が38%、令和2年が37%に対して令和3年は57%と建物火災が多く発生していることがわかります。（表1参照）

火災多発
非常事態
宣言発表

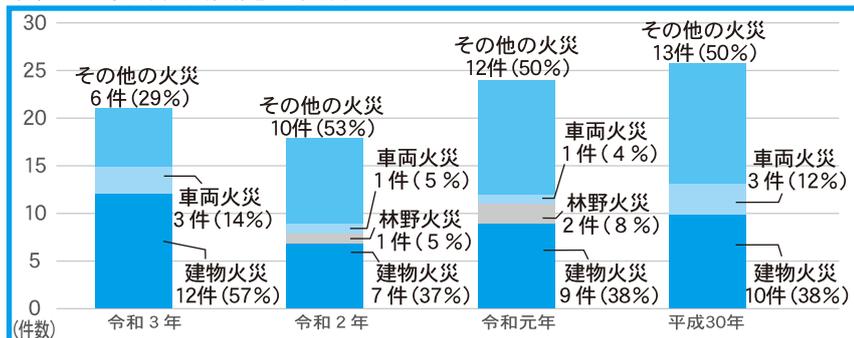
令和3年5月4日に養父市で計10棟が焼損する建物火災が発生し、更に翌日5月5日には朝来市で計5棟が焼損する建物火災が発生しました。

複数棟の建物が焼損する火災が連日発生したことを重く受け止め、養父市、朝来市と

連携して「火災多発非常事態宣言」を発表し、令和3年5月10日から令和3年6月10日までの一カ月間、住民の皆様へ火災予防の呼び掛けを行いました。

令和3年は「建物火災」の発生件数も多く、焼死者が1名発生していることから、消防本部ではより一層危機感を持って本年も引き続き火災予防の呼び掛けを行っていきま

表1 年次別火災発生状況



火災を防ぐには

☆暖房器具に注意

寒い時期はストーブやファンヒーターなどの暖房器具の使用が多くなっています。

ストーブを点けた状態で外出したり、就寝してしまわないようにお願いします。

また、寒い時期は洗濯物が乾きにくくなりますが、ストーブの上に洗濯物を干さないようにお願いします。

令和3年には、薪ストーブの煙突先端上方に設置された囲い支持木材に高温の煙が当たり続け蓄熱することで発火し火災となった事案が発生しました。

暖房器具が原因となる火災を防ぐ注意点は、

- ・ ストーブ等の火気の近くに燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- ・ ストーブ等の火気から目を離さないようにしましょう。

☆電気にも注意

家庭内の電気の取り扱いにも注意して下さい。電気コードに強い圧力が加わることにより、コードの被覆や心線を傷つけてしまい、それらが出火の原因となります。

令和3年にはテーパータツプに接続されたACアダプターの接続部が半断線により発熱し出火した事案がありました。

- ・ プラグを抜くときはコードを引っ張らず、プラグ本体を持つようにしましょう。



- ・ 使用していない電気製品のプラグはコンセントから抜いておきましょう。

☆ごみの野外焼却禁止

屋外でごみの焼却時に周囲の建物に延焼した事案も発生しています。出火行為者によると、定期的に家庭ごみの焼却を行っており、当時火が消えたと思いき、その場から離れて他の作業をしていたとのこと。気が付いた頃には火災が大きくなり火災となった事案です。

家庭ごみの焼却は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で原則禁止されています。屋外でごみの焼却は行わないようにして下さい。



火災の原因は？



火災の原因となる多くは当事者や関係者の「ちよつとした不注意」によるものです。つまり、「うっかり」や「大丈夫だろう」などの油断が火災に繋がります。大切な生命・財産を守るべく、日頃ついつい怠りがちな防火意識を今一度高めて頂き、住民の皆様一人ひとりが主体となって火災予防に努めて頂くよう、お願いします。

万が一に備えて

建物火災が発生した場合、生命・財産を守るためには少しでも早く火災に気が付き、初期消火や避難行動を開始することが重要です。

就寝中や無人の部屋から出火した場合にいち早く火災に気が付くためには、「住宅用火災警報器（以下、「住警器」という。）の設置が必要です。

冒頭にも申し上げましたが、昨年は建物火災が多く発生しています。万が一に備え、住警器の設置及び適正な維持管理をお願いします。

消防本部では引き続き火災予防及び住警器の普及推進を行い、安全・安心な街づくりを努めます。



消防士に トライやる

養父・朝来市内の中学2年生を対象としたトライやるウィークが両消防署で実施されました。

この取組みは、阪神・淡路大震災等を機に、「生きる力」を育むため、職場体験などを通して地域の人々と交流する「心の教育」を目的としています。毎年実施していたトライやるウィークですが、令和2年は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。令和3年は職員・生徒たちの双方で感染防止対策を講じることで、実施することができました。

朝来消防署は10月25日から



▲消防車の前で記念写真



▲養父消防署 訓練の様子

10月29日に実施し、和田山中学校生4人が参加しました。養父消防署では11月15日から11月17日に実施し、八鹿青溪中学校生1人、養父中学校生2人、大屋中学校生1人の合計4人が参加しました。生徒たちは、職員が整列しての勤務交替、消防車両・救急車両の点検整備から1日が始まります。

消防業務では整列や敬礼等、消防の基本動作の習得や空気呼吸器を取り扱う訓練、ロープ結索等を行いました。また、実際に消防車からホースを延ばした後、筒先を持つての放水訓練を行い、筒先に掛かる水圧の強さを体験しました。救助業務では7mの高さから吊るしたロープを腕の力だけで登る訓練や、20mのロープを渡る訓練を行いました。また、腕立て伏せや腹筋

ランニング等の基礎トレーニングでは、自分の限界を超えるほどの体力錬成を行いました。

救急業務では心肺蘇生法を実施し、人工呼吸及び胸骨圧迫等の技術を習得し、命の大切さを学びました。

予防業務では避難訓練や初期消火の体験、給油取扱所の査察の見学（養父消防署）を行いました。

初日は緊張した面持ちでしたが、日に日に表情が凛々しくなり、節度ある行動ができるようになりました。

今回のトライやるで得た知識・技術・精神力、そして仲間や命の大切さを今後の人生に活かし、チャレンジ精神を常に持ち、あらゆる分野で活躍してくれることを期待しています。



▲朝来消防署 訓練の様子

養父市消防団との 合同訓練を実施

秋の火災予防運動に伴い、11月14日、養父市中米地区において、一年ぶりに養父市消防団との合同訓練を実施しました。

この訓練は、住宅地から離れた山裾の民家から出火し、山林に燃え移る可能性と、さらに水利の不足が懸念されることを想定したもので、養父方面隊が河川の水利に部署し、火点側の養父消防署のポンプ車へ、中継送水を行う基本的な動作の確認と、連携強化を図ることを目的として行いました。



▲養父市消防団による中継送水



▲火点に向け放水

はじめに養父消防署のポンプ車が、火点に向け積載水を使用して消火活動を開始。次に養父方面隊が米地川から揚水を行い、80m先の防火水槽を中継して、さらに60m先の消防署のポンプ車へ長距離送水を行いました。

併せて方面隊単独で、防火水槽から190mホース延長を行い、放水を実施しました。

コロナ禍において、他の地域でも訓練実施に苦慮されている状況ではありますが、感染防止対策を十分に行い、出来ることから訓練に取り組んでいくことの必要性を強く感じました。

これからも住民の皆様のご安全・安心につながるよう、消防団の皆様と共に取り組んでまいります。

甲種防火管理 新規講習

10月19日にさんとう緑風ホールで、20日に南但消防本部で、2日間にわたり令和3年度甲種防火管理新規講習を実施しました。

1日目の講義では、防火管理制度、防火管理の重要性や防火管理責任、自衛消防活動と消防計画等様々なことを学びました。

2日目は実技訓練で、消火器や屋内消火栓を使った消火訓練、煙の部屋を避難する体験、そして最後に効果測定がありました。

終始熱心に受講され29名全員が資格を取得されました。今後、防火管理のリーダーとしての自覚を持ち、習得した知識、技術を十分に発揮できることを期待しています。



旅館・ホテル防火研修会 (朝来消防署)

冬に向かい火を使う機会も多くなり、火災の発生しやすいつきを迎えるにあたり、11月11日に南但消防本部屋外訓練場で、朝来市内の旅館・ホテルを対象に防火研修会を実施しました。27対象から29名が参加され、消火器、屋内消火栓の取扱い訓練を行いました。真剣な眼差しで、みなさん積極的に使用方法の確認を行いました。

消防用設備等の取扱い訓練を通し、旅館・ホテルの従業員の防火意識をより高め、防火管理体制の充実強化を図られました。



防火教室 (養父消防署)

11月から12月にかけて、養父市内の宿泊施設関係者を対象に、防火管理体制のさらなる充実・強化を目的として防火教室を実施しました。

感染防止対策を取りながら市内4箇所で開催し、計55名の参加がありました。火災予防に関する講話や消防用設備等の取扱い訓練を実施し、熱心を受講されました。

宿泊施設で火災が起こった場合、被害を最小限に止めるためには、早期の通報・初期消火・避難誘導等の初動対応が大きな鍵を握ります。

悲惨な火災を起こさないため、日頃から「火の用心」に留意する重要性を再認識していただきました。



防火訪問 (養父消防署)

秋の火災予防運動に合わせて、養父市内の独り暮らし高齢者・高齢世帯を対象に防火訪問を実施しました。これは、養父市社会福祉協議会や民生委員の協力を得ながら、春・秋の火災予防運動に合わせて毎年実施(昨年度は中止)しているものです。

市内計14世帯を訪問し、火の元の整理状況や住宅用火災警報器の設置・維持管理状況等を一緒に確認しました。

住宅火災による死者の7割超を65歳以上の高齢者が占めています。早期に火災に気付くことで、逃げ遅れを防ぎ被害を最小限に止めることにつながります。日頃から、地域ぐるみで協力体制の構築をお願いいたします。



令和4年 消防出初式

雪の降り積もる1月12日、昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して当組合関係者のみで消防出初式を開催しました。

式典では、南但広域行政事務組合広瀬管理者の訓示に続き、永年勤続及び功績のあった職員への表彰を行いました。

その後、屋外訓練場にて消防車5台、職員15名が部隊指揮者の指揮により、小隊ごとに車両前に整列し観閲者による部隊観閲を受けました。また、観閲の最後には代表職員が新年の抱負を力強く述べ、災害対応への決意を新たにするとともに、住民の方々の安全・安心を祈願しました。



消防写真館



避難・消火訓練 (10月26日 梁瀬小学校)

火災を想定した避難訓練と消火訓練が行われました。児童の皆さんは、慌てず騒がず落ち着いて避難できていました。避難後のグラウンドでは、先生、児童の皆さんが消火器の使い方を習い、その後、火点に見立てた的を狙って放水しました。



社会見学 (11月12日 朝来消防署)

枚田小学校の皆さんが社会見学に来られました。消防車や救急車に積まれているたくさんの資器材に興味深々でした。分からないこと、もっと知りたいことを質問したりして、消防士の仕事を熱心に勉強されていました。



救助訓練 (10月6日 天滝周辺)

山中で登山者が滑落し、負傷したという想定で訓練を実施しました。日々、安全、確実に救助できるよう訓練を行っています。

救急
※出動件数・搬送人員ともに減少
救急件数は2,764件、搬送人員は2,531人でした。前年と比較すると出動件数は35件減少し、搬送人員は40人の減少となっています。

種別	署別	総数	朝来署	養父署
総数		21 (19)	10 (9)	11 (10)
建物		12	7	5
林野		0	0	0
車両		3	1	2
その他		6	2	4

() 内は前年件数

火災
※総数増加
死者1名の建物火災発生
火災件数は21件で、前年と比較すると2件増加しました。11月には、養父市内において死者1名を出す建物火災が1件発生しました。

消防白書

令和3年
1月～12月

種別	署別	総数	朝来署	養父署
総数		55 (60)	25 (31)	30 (29)
交通事故		19	10	9
建物事故		12	4	8
機械		1	0	1
水難		1	1	0
その他		22	10	12

() 内は前年件数

救助
※救助件数・救助活動ともに減少
救助件数は55件で、前年と比較すると5件減少しています。55件のうち32件(前年比11件減少)で救助活動を行い、31人を救助しています。

種別	署別	総数	朝来署	養父署	管外
総数		2,764 (2,799)	1,369 (1,396)	1,395 (1,402)	0 (1)
急病		1,731	889	842	0
交通事故		152	83	69	0
一般負傷		447	211	236	0
その他		434	186	248	0

() 内は前年件数



消火訓練 (11月18日 はちぶせの里ようか)

火災を想定した消火訓練が行われました。もしもの時に効果的な初期消火ができるように、熱心に訓練に取り組まれていました。



消火訓練 (11月18日 中川小学校)

訓練用水消火器を使用して、消火訓練が行われました。火点に見立てた的をしっかり狙い、放水、消火の体験をされていました。



社会見学 (11月18日 養父消防署)

関宮学園前期課程の皆さんが社会見学に来られました。救助工作車の見学では、硬い鉄パイプが簡単に切断される様子を目の当たりにして、目を丸くされていました。



社会見学 (12月15日 養父消防署)

養父小学校の皆さんが社会見学に来られました。一直線にホースが延びていくところや、硬い鉄パイプがあつという間に押しつぶされるところを見て、「おー」と驚きの声が上がっていました。



特別査察 (12月15日 大型商業施設等)

年末に向かい人の出入りや商品量も多くなると予想される商業施設に対し、特別査察を行いました。防火管理及び避難管理を更に徹底するよう指導しました。

火災調査レポート

ごみの野外焼却(野焼き)による火災に注意

南但消防本部管内では、令和3年中、21件の火災が発生し、そのうち焼却火による火災が6件と全体の約3割を占めています。また、焼却火による火災の発生時期は、春から秋にかけて起きています。全国的に見ても焼却火による火災は増加傾向にあり、その原因の多くが、「燃え広がると心配はない」と思い、焼却中にその場を離れる「や」「火を完全に消火せずに帰宅する」などの油断から発生しています。また、強風注意報や乾燥注意報などの気象情報が発表されている時に発生し易くなっています。

ごみの野外焼却は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により平成13年4月1日から原則禁止され、行為者には5年以下の懲役、若しくは一千万円以下の罰金、またはその両方と厳しい罰則が定められています。

ごみの処分は、南但クリーンセンターへ直接持込む、若しくは、南但広域行政事務組合指定のゴミ袋を購入し、各地区で定められているごみ収集日に出して下さい。ルールを守り、美しく住み良い町にしましょう。

火災にならなくても、ごみの野外焼却によって洗濯物に臭いがつく、煙が室内に入るため換気が出来ない等により近隣住民とのトラブルにも繋がりがかねません。また、環境悪化を招き、ダイオキシン類等の人体に影響を及ぼす有害物質が発生する恐れもあります。



お知らせ

朝来消防署・養父消防署 車両2台を更新

◆高規格救急自動車

朝来消防署配備の救急車1台を更新しました。

この救急車には従来の救急車と違い、自動ブレーキ、全周囲カメラといった車両安全装置、アクティブパーキングといわれる走行状況・活動状況に応じて発光パターンを変化させることができる赤色警光灯等が装備されています。

また、ベッド防振架台には、前後加速度による揺れを吸収しつつ、加減速時の不快を減らすことで傷病者への負担軽減を図ることができる、次世代型の磁気式防振架台を装備。更にストレッチャースタイル型に比べて約20kg最大荷重が増えたことや、誤操作により急激にベッドの高さが低下し

ない等の安全機能が備わっています。



▲朝来消防署配備の救急車

◆消防ポンプ自動車

養父消防署配備のポンプ車1台を更新しました。今回更新されたポンプ車は、コンパクトなボディながら、水1.1トンを積載、C A F S（圧縮空気泡消火システム）【注1】を搭載し、高い消火能力を誇ります。

主な装備として、双方向サイドプルタイプ吸管巻取り装置、車両後部には電動ホースカー、側部には超高輝度LED照明装置に加え、常時車両状況を確認できる全周囲俯瞰モニター等の新機能を備

えています。

新たな車両と高度な資器材の導入で、さらに安全と安心を高めてまいります。

なお、更新された車両2台は令和3年12月20日から運用を開始しています。

【注1】C A F Sとは消火薬剤を加えた水に圧縮空気を送り込んで発泡させる装置です。消火薬剤に浸透性があることにより窒息効果、再燃防止効果もあります。また、空気泡の状態で送水するため、ホースの重量が軽く、取扱いが容易であり少人数での消火活動が可能です。



▲養父消防署配備のポンプ車

◆春の火災予防運動

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図ることを目的として、3月1日から3月7日までの7日間、全国一斉に春の火災予防運動が展開されます。

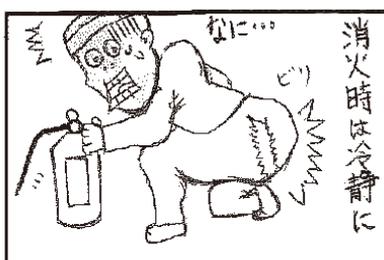
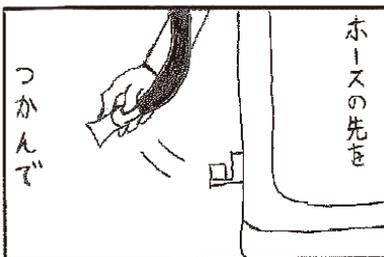
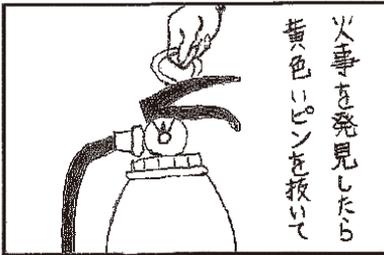
朝来消防署、養父消防署ともに火災ゼロに向け、万全の態勢で臨みます。

おうち時間 家族で点検 火の始末

3月1日～3月7日

主な行事予定

- 消防訓練 新井・尾崎
- 立入検査等 市内の事業場の査察
- 消防教室 学校・事業場・各地区
- 広報活動 防火ポスターの配布
- 防火研修 市内の病院・福祉施設



NANTAN 119だより第27号

2022年2月1日発行(年3回発行)

- 発行・編集 南但消防本部予防課 兵庫県朝来市 和田山町枚田436-1
- TEL 079-672-0119
- FAX 079-672-5046

南但消防本部

住宅用火災警報器が大切な「命」「財産」を守ります!



- 設置しておよそ10年が交換の目安です。
- 全ての寝室(子ども部屋含む)と2階以上に寝室がある場合は階段にも必ず取付けましょう。